

ハロー フランス



2014年 春号(季刊) 第131号

ふじみの国際交流センター

第16回通常総会開催

日時：平成26年6月15日(日) 10時30分から

場所：ふじみ野市フクトピア 1階会議室
(ふじみ野市福岡1-2-5)

ふじみの国際交流センターの平成25年度事業報告と平成26年度事業計画を審議する通常総会を開催します。議決への参加は正会員に限られますが、傍聴はどなたでも可能です。是非いらして下さい。

また、総会の後はインフォメーションふじみの200号記念・外務大臣表彰受賞・認定NPO取得の感謝パーティーを開催します。

感謝パーティー

外国人と日本人がいつでも集える拠点がほしいとふじみの国際交流センターを立ち上げてから17年が経過しました。昨年の外務大臣表彰受賞、今年1月認定NPOの認証に続き、今年4月、多言語情報誌「インフォメーションふじみの」は200号発行を迎えることができました。翻訳者のみなさんを始め、原稿を書いてくださる方、印刷や発送作業をして下さるスタッフ、そしていつも支えてくださるたくさんの“あなたがいたから”思いを叶えることができました。感謝を込めて、みなさまとともに記念を祝うパーティーを開催いたします。

日時：平成26年6月15日(日) 12時から14時

場所：ふじみ野市フクトピア1階展示ルーム

内容：「インフォメーションふじみの」200号展示

世界の料理

FICEC活動スライドショー ほか

会費：1,000円



「外国人・支援担当者に対するジェンダー視点プログラムについて検討するセミナー」に参加して

2月3日、うれし野まちづくり会館3階で、国立女性教育会館(ヌエック)主催のセミナーが開かれました。在日外国人支援の必要性が求められている現在、外国人相談員にとって有用なプログラムを作るために実験的に行った研修会です。FICECが地域コミュニティの核として存在し、当事者の外国人が中心になって活動している団体は日本の中でも非常に貴重な存在だということで、FICECの外国人相談員6人を中心に、東京、静岡、神奈川で活動している相談員16人が集まったセミナーでした。

まず、「名前はアイデンティティーである」というヌエックの国際室専門職員でファシリテーターの越智さんの間に、生活相談を受ける時のキーワードを一人一人が発表しました。FICECの6人が想像以上にしっかりと責任を持って活動してくれているのを知って、日本での親のようなつもりでいた私にとって感動のセミナーになりました。

FICEC以外の相談員の方たちは時給2000円の報酬を受けている人や、同行時に外国人支援交付金として東京都から1回1万2000円支給されている人たちから、当番代として週1回1000円だけのFICECのやり方を非難する声も高く、「安全とやる気を保証するためには人件費と交通費は請求すべきだ」と主張する彼らの勢いに、FICECの責任者として考えさせられるセミナーでもありました。(石井 記)

★寺村壁如

私は数年前からふじみの国際交流センターでボランティアをしています。同じ海外から日本に来て、同じ女性である立場でも、人それぞれの運命で大いに異なります。言葉の不自由や夫の暴力など、このような悲惨なことはとても悲しいと思います。

今回の研修会に参加して本当に良い勉強ができました。神様の手引きによりこのボランティアをさせてもらって、受けるより与えるほうが幸いとこの諺を肝に命じて、これからもたくさんの人々を助けたいと思います。

★秋元ノエミ

セミナーに初めて参加しました。初めに生活相談をする時のキーワードを考えて自己紹介しました。私が考えたのは「言葉」です。私の経験として言葉の壁が一番苦労しました。学校で通訳のボランティアをしている時、学校の先生はフィリピン人のお母さんと会話ができなくて大変困っていました。PTAの時「どうして参加しないのですか」と聞くと、「言葉ができないので意味が分からないから行きたくな

い」と言っていました。言葉がわからないと生活にも本当に不安です。

FICECから参加しているボランティア外国人は台湾、ブラジル、フィリピン人です。静岡県から参加したパラグアイ人、京都の弁護士さんもいらっちゃって、家庭内で夫から暴力、暴言とか自由を奪われているのは本当のDVで、お互い大きな声でもめたりしているのは家庭内での夫婦喧嘩で、DVではないと説明がありました。

ボランティア活動の中で絶対にしてはいけないことも教えてくれました。参加した方々と情報交換をしたり、男女共同参画社会の国際データを見せてもらいました。日本の方々がこんな一生懸命ボランティア活動をしてくれる事は私たち外国人にとっては幸せなことです。言葉でうまく言えませんが心から感謝しています。ありがとうございます。色んな事を学びました。参加して本当に良かったと思います。

★近澤エルザ

私は、ポルトガル語でDVの通訳をする機会がなくて、DVの主題を理解していませんでした。このセミナーのお陰でDVの事が少し分かるようになりました。国立女性教育会館(ヌエック)の訪問者さんたちが色々の活動をやっているお話を聞いてすごく感動しました。

残念と思ったのは、DV防止法が制定されて10年近くが経ちますのに、いまでもDVを夫婦げんか、痴話げんかと間違えている警察官や相談員、医療や裁判などの専門家がいる、支援を求めているのに逆に心理的に傷つけられている事です。早く支援を認めてもらってDVの皆様が問題を解決して仲良く暮らせるようになって欲しいです。ヌエックとFICECの皆様が外国人の為に頑張ってくれて、言葉に出来ない感謝の気持ちです。



男女共同参画と多文化共生ワークショップ

「地域で連携を進めるために在住外国人支援者とともに考える会」に参加して

2月4日、四谷にある主婦会館プラザエフで、在住外国人女性に係わる取組・支援について、現状を把握・共有・理解すると共に、男女共同参画のあり方について考える会が、国立女性教育会館(ヌエック)の主催で開催されました。

午前中は、自治体における連携、協働の取り組みとして、長野、静岡、京都の事例が発表されました。午後は女性・市民の力を生かした取り組みについて、岡山市男女共同社会推進センターの取り組みと、FICECの取り組みについて山崎友理さんと森田信子さんが発表しました。その後、4人の大学教授をコメンテーターに迎え、グループディスカッションをしました。ここでは外国人相談者を含めた支援者の参画の機会や場をもっと作っていく必要や、その価値についての認識向上がテーマになりました。

★ 森田 信子

私は埼玉県富士見市に住み、そこで学習支援と日本語の勉強をしています。ふじみの国際交流センターというのは埼玉県ふじみ野市にあります。お隣なのでとても間違いやすいのですが、ここで生活相談とDV被害者の支援をしています。

ふじみの国際センターではDVの被害を受けた方をシェルターで預かります。私はそのDV被害者が転居するまで支援しています。中には転居後もケアをする場合もあります。支援の内容は、外国人のスタッフ1名、日本人のスタッフ2名で、買物、弁護士事務所、不動産屋、市役所などに行っています。ふじみの国際交流センターでお世話になったから今ボランティアでお返しをしようという外国人の方もいます。日本人だけではやりきれないところが多いのです。それで私は外国人ボランティアの人も地域と一緒に支援してほしいと思います。そしていつかは外国人ボランティアの方だけでシェルターの支援をやっていただきたいという希望を持っています。

では、外国人ボランティアの方が行政の方とうまくやっていくのはどうすればいいのでしょうか。また、そのようなボランティアをしていく人を支えるにはどうすればいいのでしょうか。まだ難しい部分があり、実現はできていません。私たちは少しでも実現に近づけるようにDV被害者が転居したあと、外国人スタッフと一緒にシェルターの掃除と洗濯、次の方がここに来てよかったと思うように、ここで生活できる

ようにしています。

一番大切にしていることは、その掃除とか、洗濯が終わったあと、外国の方と私たちと一緒に食事をしながら、今回どうだったというような話をし、また次のステップにつなげるようにしています。

★山崎友理

私は外見からは日本人と変わらなく見えるのですが、話をするときすぐそうではないとわかってしまうので、明らかに外国の出身だと自覚はしています。1986年にデザインの勉強のために台湾から日本に来て、日本人と結婚、子どもが2人います。もう大学を卒業して、上の子は中学校の先生になり、下の子も社会人です。だいぶ余裕ができてきたので、もっと思い切りセンターの活動に関わっていきたいなど内心では思っているところです。

(中略 FICECの15の活動を紹介)

こうした活動の中、日本の行政、制度についてはスピードが遅いと感じます。どのように行政と連携して、外国人のサポートをしていけばよいか常に考えています。日本のルールや文化、習慣を外国人にも知ってもらいたい。これからどうやって乗り越えられるかということについて私は考えています。くじけずに少しずつ目標に向かって、多文化共生が理想の社会に近づくように頑張りたいと思います。



入管の表と裏

藤林 美穂

東京・品川にある東京入国管理局は全国にある入管の中でも最も規模が大きく、取扱い件数も多いところです。毎日大勢の外国人が来てごったがえしています。

通常、ビザのある人はこの1階と2階にしか用はありません。2階の受付カウンターにビザの更新・変更などの申請書を提出して、しばらくすると自宅に結果を知らせるための通知はがきが届くので、それを持って入管に行き、古いカードと引き換えに新しい在留カードをもらって無事手続きが終了します。忙しくて入管に行く時間がとれない人や、書類の書き方がわからない、あるいは在留状況に問題があって、特別な書類作成が必要、という人は、行政書士や弁護士に依頼して書類を作ってもらい、提出もおまかせ、ということもできます(この場合は本人は一回も入管に行かずに手続きが完了します)。これは、いわば入管手続きの、日の当たる部分、表側です。

ビザのある人の更新・変更などの審査を扱うのと並行して、入管はビザのない人の摘発・審査・退去強制(いわゆる「強制送還」)を行っています。この業務を入管の裏側、と言っていいかどうかはわかりませんが、少なくともテレビの取材が入ることは絶対になく、ニュースで報道されることもまずない部分です。

前回、収容施設について書きましたが、ビザがなくて収容されていた人が仮放免を認められ、収容所から出てくると、逃げたり隠れたりしない証として、定期的に(月1回のことが多い)入管に出頭してインタビューを受けなければなりません。なお、仮放免というのはとても不安定な状態で、就労はできません。日本人やビザのある外国人と結婚したり、その間に生まれた子を養育

する、などの理由で在留特別許可を得てビザをもらえることもあります。そういうチャンスがない場合、再び収容される恐怖におびえながら毎回入管に出頭することになります。

私は、ビザのない外国人に付き添って仮放免の出頭に同行することが時々あるのですが、この出頭時のインタビューでは、毎回担当官が外国人に向かって「国に帰りなさい」と繰り返し言い続けることになっています。外国人がうんざりするインタビューですが、担当官のストレスも想像に難くありません。このインタビューに、入管は気の遠くなるような時間とエネルギーを注いでいます。

当事者ではない私が横から見ていて感じるのは、この膨大な時間とエネルギーは、ここまでかける必要があるのかなあということです。出頭時期の間隔をあけてしまうと、当事者である外国人はなんとなく「ふつうにビザのある人」と同等の生活になってしまうので、安心させないために定期的に入管に来させる、ということなのかもしれません。



●筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体にボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

ルーシーとチャーリーブラウンの会話

上島 直美

大好きなスヌーピーのお話の中で「なぜ、私たちはこの地上に置かれたんだと思う？チャーリーブラウン。」とルーシーが尋ねると、「他人を幸せにするためさ。」とチャーリーブラウンは答えていました。

地上に置かれた使命が他人を幸せにすることって・・・、とても難しい。

最初にセンターのドアを開けた時から、早いもので10年が経とうとしています。

とにかくセンターが大好きで、子育てと仕事の合間に、すこしでも隙間の時間ができたらセン

ターに行く日々。積極的に「前へ前へ」と行動すればするほど、様々な経験や学びを得ることができ、次々と素敵な出会いにも恵まれました。

そして新しい出会いのたびに、このルーシーとチャーリーブラウンの会話が頭の中によみがえりました。振り返って思うと、私にとってセンターで得た最高の宝物、それはなんと言っても人との出会いです。今の私を作ってくれた、数々の「出会いという奇跡」に感謝し、私も目の前の人

に一生懸命心を尽くす。それでいいかな・・・？チャーリーブラウン。

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 十エ

○月○日

「平成26年度NPO関連予算ヒヤリング」が開かれるというので、永田町まで出かけた。大会議室には全国からNPO関係者がぎっしり集まっている。外務省から始まって環境省、農林水産省、復興庁、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省と、課長係長クラスの方が96人、NPO関連予算事業を次々と発表する。でも、え？え？外国人支援関連の事業がない。手を挙げて質問してみた。

「私たちは日本で暮らす外国人の自立支援をしている団体なのですが、在留外国人の担当省はどこですか」30人超の列席していらした国会議員もみんな、「どこ、どこ？」と顔を見合わせるばかり。だいぶたってから、外務省の室長が「すみません、外務省は海外の外国人の事を考える所なのです。子どもの教育は文科省に、生活保護は厚労省にというように個別に聞いてください」という返事をくれた。このままでいいのかしら。日本で暮らす外国人支援の大切さに誰か気がついて。

○月○日

久しぶりに洗濯物を外に干した。2月から3月にかけて雨が多いのは昔と変わらない。この時期になると、今日も雨かと不満顔の私に話してくれた母の言葉を思い出す。「この時期はね、一雨ごとの暖かさ

と言ってね、雨が降るたびに少しずつ少しずつ暖かくなるの」とさとうように言う。子供心に良くなるって大変なんだと感じた。

今日は県立高校入試2日目、面接の日だ。子どもクラブに通う中学3年生が数人チャレンジしている。そのうちの一人Kちゃんは8月に来日してFICECに毎日通い、あいうえおから始まって漢字や日本の地理や歴史まで覚え、7ヶ月で入試を体験している。

スタッフはそれぞれ自分の得意科目を担当。月曜の午前は理科、午後は日本語というように曜日毎に教科を決めて教えた。私は数学。日本語が十分でない彼女が数学用語を覚えるのは並大抵のことではない。素因数、解、内接円、円周率、外角などひとつ一つ辞書で確かめてから練習に入る。説明や問題が解ってきた時の笑顔は何とも可愛い。

私達は彼女と出会ったことで、親と同居していない子は昼間の高校を受験する資格がないこと、日本語がわからない日本国籍の子どもが大勢海外で暮らしていることを知った。

昨日の試験はできたかしら。今日の面接では練習した通り落ち着いて答えられるかしら。心配で頭がいっぱいになる。でも一雨毎に暖かくなるはず。きっと良い結果が出るでしょう。10日の発表を期待して待とう。

FICECの運営資金を応援してください！

未来を拓くサポーター制度

FICECでは、当団体の活動にご理解をいただき寄附という形で支援して下さる方を「サポーター」とする新しい制度をつくりました。

現在、FICECでは自主事業として「国際子どもクラブ」「多言語情報誌の発行」「日本語教室」「ホームページ作成」などを実施しています。これらのプロジェクトの対象は外国ルーツの子どもや自立をめざす外国人であるため費用の受益者負担が難しい活動です。今後も自主事業を継続するために皆様のお力添えが必要です。

FICECの活動の中で共感し応援していただけるプロジェクトを指定して寄附することにより寄附者の思いを活動に反映いたします。一口1,000円から何口でも寄附できます。活動の様子は、ホームページやフェイスブックにて報告いたします。また、支援額によりFICEC会員向け情報誌「ハローフレンズ」を送らせていただきます。

皆さまからのより一層のご支援とご協力をお願いいたします。

■支払方法

郵便局の振込用紙に下記を記入ください。

(ア) 支援したいプロジェクトの番号

- ①国際子どもクラブ
- ②多言語情報誌の発行
- ③日本語教室
- ④ホームページ作成
- ⑤FICEC運営費

(ご希望がない場合は⑤FICEC運営費に充てさせていただきます)

(イ) 寄附金控除領収書が必要な方は、「領収書希望」と記入してください。

※年間2,000円を超える寄附金は寄附金控除

(ウ) 郵便番号・住所・名前・電話番号

※領収書発行時に必要です。

個人情報他目的には使用することはありませんので正しくご記入ください。

払込み加入者負担（赤の振り込み用紙）もしくは払込み者負担（青の振込用紙）いずれでもお振込できます。また会員の皆様は会費と一緒に振込いただいても結構です。また、ふじみの国際交流センターに直接お持ちいただき、活動の様子をのぞいて下さったら幸いです。

心より皆様のご支援をお待ちしています。

ぜひご支援ください！

FICECのプロジェクト紹介

FICECでは、日常的に以下のようなプロジェクト・活動を行っています。

①国際子どもクラブ

毎週土曜日（長期休暇中は平日1～2回と土曜日）に外国ルーツの子どもへの学習支援を実施しています。学習者が増え、現在無料で借りている場所が手狭になり、学習室を増やすことを検討しています。部屋の使用料が必要となります。
年間必要額27万円（賃借料、教材・書籍代）



②多言語情報誌の発行

毎月、生活に役立つ情報を7か国語で発行しています。無料で見られるように埼玉県・市町村・公民館、警察などに置いてあります。幼稚園、保育園にも送りたいと思っています。
年間必要額50万円（翻訳料・送料・印刷費）



③日本語教室

毎週木曜日、日本で暮らす外国人がよりよい生活ができるよう、日本語教室を開催しています。
年間必要額20万円
（書籍代・コピー代・ボランティア研修費）



④ホームページ作成

FICECホームページは年間37万件のアクセス数！26年度には外国人にもより見やすいホームページにリニューアルする予定です。
年間必要額10万円
（翻訳代、システム設計、デザイン費）

⑤FICEC運営費

ふじみ野市よりうれし野まちづくり会館の一室を賃借契約して、多文化共生を目的に在日外国人を対象とした活動をしています。
年間必要額285万円
（賃借料・シェルター運営費など維持管理費代）

センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511

口座名：ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。

サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター（製版代） 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン（A4判）	
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ申請、履歴書 A4判1頁、40字・30行 1枚1,500円
	その他の文書	A4判1頁、40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	半日5,000円より＋交通費

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2013年4月～（50音順・敬称略）

阿澄康子、安部幸枝、新井良司、荒田光男、有山高司、イオン(株)大井店、石井ナナエ、伊藤真弓、岩田仁、公野昇、小熊千寿子、小原知子、郭秋蓮、葛西敦子、加藤久美子、神田順子、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、駒形一夫、佐藤義治、菅山修二、鈴木譲二、田中つや子、寺村璧如、中村禎作、西川由比子、野辺頼之、萩原千代子、長谷川雅恵、長谷川正江、東入間地区遊技業防犯協力会、FICEC英語教室参加者一同、藤林泰、松浦康介、森和也、森田信子、山崎友理、山畑博子、劉圭霖、匿名希望2人



特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel：049-256-4290 Fax：049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。